

# すべてのステークホルダーとの責任ある対話

オムロンは「サステナビリティ方針」の中で、「すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、強固な信頼関係を構築します」と宣言しています。ステークホルダーとの対話を通じた信頼関係は、オムロンの持続的な成長にとって欠かさない資産であり、ソーシャルニーズの創造をしていくために不可欠な要素です。私たちは、すべてのステークホルダーとの責任ある対話に取り組み、持続的な企業価値の向上と、事業を通じた社会的課題の解決に取り組んでいます。

| ステークホルダー | 主な取り組み                                                      | コミュニケーション手段                        | 活動実績                                                                                                                                      |
|----------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| お客様      | 事業を通じた社会的課題の解決を目指し、より良い商品・サービスを提供しています。                     | 営業活動を通じたコミュニケーション                  | オートメーションセンタ(ATC)37拠点を活用したお客様との共創。<br>2020年度実績:<br>・グローバルでお客様対応のリモート化を実現<br>・バーチャル空間を用いた展示内容の見学を実現(国内拠点:東京、刈谷<br>海外拠点:スペイン、シンガポール、北米エリアなど) |
|          |                                                             | カスタマーサポート                          | 世界40か国150拠点以上のサポートネットワークにより、お客様のグローバル競争力向上に貢献。                                                                                            |
|          |                                                             | ユーザーモニタリング                         | ヘルスケア事業にて、モニタリング用住居環境スペースを設置し、モニタリング結果を喘鳴センサの開発に活用。<br>2020年に喘鳴センサWheezeScanがグッドデザイン賞を受賞。                                                 |
|          |                                                             | 展示会                                | 「中国国際輸入博覧会2020」(CIE)出展によるオムロンブランドの認知拡大。500件を超える商談機会を創出。                                                                                   |
|          |                                                             | WEBサイト                             | 最新の情報とサービスを提供するWEBサイトを拡充。<br>BtoBサイトランキングでは14年連続総合1位を獲得。                                                                                  |
| 取引先      | グローバルに調達活動を行っており、仕入先様と共にサプライチェーン上のサステナビリティのレベルアップに取り組んでいます。 | 購買方針説明会<br>(グローバルパートナーカンファレンス)     | 主要仕入先様に対し、オムロンの経営方針・サステナブル調達の方針を共有。2020年度は1on1のオンラインミーティングを実施。                                                                            |
|          |                                                             | サステナビリティセルフチェック                    | 仕入先様自身によるサステナブル調達ガイドラインのセルフチェックの実施。2020年度対象の仕入先様であるアジア・パシフィック19社から遵守状況を確認。                                                                |
|          |                                                             | 第三者基準での評価                          | RBA*の評価ツールを用いた自主チェック実施。サステナビリティリスクを特定した仕入先様69社に対する是正行動の実施。<br>*RBA: Responsible Business Alliance(責任ある企業同盟)                               |
|          |                                                             | 環境負荷低減に寄与する「グリーン調達」                | グリーン認定・更新の実施。2020年度はさらに92社を認定し、累計3,026社が評価完了。有害化学物質を含まない材料を積極的に採用し、サプライチェーン上の環境負荷低減に寄与。                                                   |
|          |                                                             | 紛争鉱物調査                             | 業界標準規格の紛争鉱物調査帳票を採用し、サプライチェーンを遡った調査実施と是正措置の実施。<br>環境破壊・人権侵害に及ぼさない調達を推進。                                                                    |
| 社員       | 社員の能力や情熱を解き放ち、思う存分に発揮できる企業づくりに取り組んでいます。                     | VOICE<br>(グローバル社員エンゲージメントサーベイ)     | 経営陣が全社員の声を聴き課題解決を図るエンゲージメントサーベイを実施。2020年度は、オムロングループ全社員28,006人に対し調査を実施(回答率90%)し、40,453件のフリーコメントから、経営課題を特定。解決に向けてアクションを起こすべく、執行会議で議論。       |
|          |                                                             | 社長との直接対話の場<br>「The KURUMAZA」       | 企業理念をオムロン発展の原動力にすることを目的とした社員と社長の直接対話を実施。                                                                                                  |
|          |                                                             | 会長との直接対話の場<br>「企業理念ミSSIONナリーダイアログ」 | 企業理念の実践を組織に根付かせるための経営幹部との直接対話。2020年度は、海外エリア含め計3回をオンラインで実施。                                                                                |
|          |                                                             | TOGA<br>(The OMRON Global Awards)  | ゴールド賞に輝いたチームが京都本社に集い企業理念実践のチャレンジを役員、社員に対して共有し称賛を受けるイベント。2020年度は、リアルとオンラインのハイブリッド開催。<br>社内外15,000人が参加し企業理念実践に対する共感・共鳴の輪を拡大。                |
|          |                                                             | 健康経営宣言<br>「Boost5プロジェクト」           | 社員の健康を重要な経営基盤として捉え、健康状態の見える化・分析に基づいた「オムロン健康白書」を発行。                                                                                        |
| 株主・投資家   | 「透明性の高い経営の実現」を目指し、株主・投資家との双方向コミュニケーションに努めています。              | 決算説明会/ESG説明会/<br>個人投資家向け説明会        | 決算説明会(4回)、個人投資家向け説明会(2回)、ESG説明会、機関投資家との面談(570回以上)をすべてオンラインで開催。従来同様の透明性の高いIR活動を実現。                                                         |
|          |                                                             | 定時株主総会                             | オンライン配信を実施。会場への来場者72名、ネット中継アクセス407名。議決権行使率は過去最高の88.1%。                                                                                    |
|          |                                                             | IR関連冊子の発行                          | 統合レポート、株主通信などIR冊子の発行による積極的な情報開示を実施。                                                                                                       |
|          |                                                             | IRサイト・サステナビリティサイトの企画・運営            | 決算関連資料等のタイムリーな情報開示。非財務情報の充実。                                                                                                              |

## ■ お客様との対話

### 生産現場を再現した最先端なFA技術の 集積拠点『オートメーションセンタ』のバーチャル拠点オープン

オムロンは、製造現場の課題をお客様と共に解決するファクトリーオートメーション技術の集積拠点「オートメーションセンタ (ATC)」のバーチャル見学を開始し、新型コロナウイルスによる移動制限の中でも、お客様と課題解決に取り組んでいます。

国内外37か所あるATCのうち世界最大の旗艦拠点「ATC-TOKYO」の施設や展示デモ機をバーチャル上に再現したコンテンツをパソコン上で見学できるようになり、世界中のお客様が、時間や場所の制約なく、オムロンの最先端FA技術をリアルに体感できます。その後、ご要望に応じてリモートで中継し、「実証・検証」、「技術トレーニング」など多くのソリューション・サービスにより、お客様の設備に近い環境を再現しています。

これらのプロセスを踏むことで、緊急事態宣言下でも4,000名以上のお客様との対話を実現し、日々革新的なソリューションを生み出しています。



実際に見学しているような実感が味わえる、  
3Dウォークスルーを活用した  
バーチャルATC-TOKYO



デモ機の見学イメージ

## ■ 社員との対話

### 従業員エンゲージメントサーベイ「VOICE」

オムロンでは、2016年より経営が社員の声を直接聴き、経営課題を特定し解決に向けてアクションを起こすことを目的としたグローバル社員エンゲージメントサーベイ「VOICE」を実施しています。事業を支える基礎となる組織マネジメント、制度、人材開発、組織風土等に焦点をあて、オムロングループ社員それぞれが、企業理念・戦略・組織目標を理解・腹落ちして、そこに向かって、自らの力を発揮しようという気持ち（エンゲージメントが高い状態）で仕事に取り組める会社づくりを推進しています。



社員にVOICEへの回答を  
呼びかけるポスター

### 企業理念ミSSIONナリーダイアログ

次世代のリーダーとなる世界各地の経営幹部と取締役会長による、企業理念に対する対話の場、「企業理念ミSSIONナリーダイアログ」に2013年度から取り組んでいます。参加者は、ダイアログをつうじ自分にとっての企業理念の実践とは何かを自らの言葉で語り、表出します。参加者自身が企業理念に対する理解を深めることに加え、自らがどのようにして組織の成長に貢献するか、また、自部門のメンバーに企業理念に対する共鳴の輪を広げるかを議論します。2020年度は、コロナ禍により初めてオンライン形式で実施しました。オンラインとすることで多くのメンバーが参加できたとともに、チャット機能などを活用することで、より多様な意見が交わされました。



企業理念ミSSIONナリーダイアログ

## ■ 株主・投資家との対話

### コロナ禍における株主総会・ESG説明会の開催

オムロンは、株主・投資家の皆様との対話を通じた企業価値向上に取り組んでいます。2020年度は、新型コロナの感染拡大防止のため、第83期定時株主総会やESG説明会をオンラインで開催しました。定時株主総会は、現地での参加者数を抑えながら、インターネット中継も活用し、多くの株主・投資家との対話を実現しました。これらの取り組みにより、議決権行使率は3.7ポイント増の88.1%と過去最高となりました。ESG説明会では、オムロンの事業や企業理念経営を軸とした人材に関する取り組み、サステナビリティと環境への取り組み、エネルギーソリューション事業の取り組み、気候変動に関する取り組みに関する説明を行い、株主・投資家など225名(内投資家は過去最高の170名)が参加し、多くのご質問・ご意見をいただきました。

このような対話から得られた知見は経営の取り組み改善につなげています。コロナ禍においても、株主・投資家の皆様との透明性の高い情報開示に努めていきます。



第83期 定時株主総会  
(2020年6月23日)



2020年度 ESG説明会  
(2021年3月1日)

# 社外からの評価

## イノベーションに関する社外からの評価



### 「Top100 グローバル・イノベーター2021」を受賞

オムロンは、世界で最も革新的な企業・研究機関100社を選出する「Top100 グローバル・イノベーター」に2016年度から5年連続で選出されました。



## 各種インデックスの組み入れ状況

オムロンは、世界各国のESG評価機関より高い評価を得ており、国内外のESGインデックスの構成銘柄に選定されています。Dow Jones Sustainability Indicesのアジアパシフィックに2010年から11年連続、ワールドに2017年度から4年連続選定されました。またMSCI ESG Leaders Indexesには、2015年から7年連続、FTSE4Good Index Seriesに6年連続選定されるなど、数々の指数に組み入れられています。

### ■ ESG インデックス

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA

**2021** MSCI ESG Leaders  
Indexes Constituent

FTSE4Good

**STOXX** Member 2020/2021  
ESG Leaders  
Indices

年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) がESG投資の運用開始にあたって2017年7月に選定した以下の3つのESGインデックス全てに5年連続で選定され、2018年に追加されたS&P/JPXカーボン・エフィシエント指数にも3年連続で選定されました。



**2021** CONSTITUENT MSCI JAPAN  
ESG SELECT LEADERS INDEX

**2021** CONSTITUENT MSCI JAPAN  
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

### ■ 日本国内主要インデックス

日経平均株価を構成する225銘柄に、2019年3月から選定されています。



## サステナビリティに関する社外からの評価

### 健康経営銘柄2021に選定

オムロンは、経営トップをリーダーとした「健康経営宣言」や「オムロン健康白書」による社員の健康状態の見える化などが高く評価され2018年度より3年連続選定されました。



### なでしこ銘柄に選定

オムロンは、ダイバーシティ推進の取り組みが評価され2017年度より4年連続選定されました。



### 「PRIDE指標」で最高評価「ゴールド」を受賞

オムロンは、任意団体「work with Pride」が主催するLGBTなどの性的マイノリティに関する取り組みを評価する「PRIDE指標」において、最高評価である「ゴールド」を4年連続で受賞しました。



### EcoVadis社のサステナビリティ評価 「プラチナ」に格付け

オムロンは、CSR活動における環境分野での取り組みが高い評価を受け、選定されました。



### S&Pグローバル社のサステナビリティアワードで 最高評価の「ゴールドクラス」に初選定



## コミュニケーションに関する社外からの評価

### 東洋経済「SDGs日本を代表する500社 ランキング」総合1位を獲得

オムロンは、東洋経済社が主催するSDGsランキングで総合で1位を獲得しました。カテゴリー別でも、環境および企業統治で1位、社会性で3位を獲得しました。



### Best Japan Brands 2021

インターブランドジャパンが、毎年発表する日本企業のブランド価値ランキングにおいて、2018年より4年連続でランクインし、ブランド価値金額は対前年比+1%の880MUSD(約968億円)と評価されました。



### 日経アニュアルレポートアワード 2020で「準グランプリ」に選出

オムロンの『統合レポート2020』が、「日経アニュアルレポートアワード2020」において、準グランプリを受賞しました。



### 「優れた統合報告書」 「改善度の高い統合報告書」に選出

オムロンは、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用機関から統合報告書における高い品質が評価され、「優れた統合報告書」「改善度の高い統合報告書」に、4年連続で選出されました。



# 会社情報

2021年3月31日現在

## 創業

1933年5月10日

## 設立

1948年5月19日

## 資本金

64,100百万円

## 連結従業員数

28,254名

## 株式の状況

発行済株式数 206,245千株

単元株式数 100株

株主数 27,848名

## 上場証券取引所

東京・フランクフルト

## 証券コード

6645

## 決算日

3月31日

## 定時株主総会

6月

## 株主名簿管理人

三菱UFJ信託銀行株式会社

## 米国預託証券(ADR)の預託

### および名義書換代理人

JPMorgan Chase Bank, N. A.

## 本社

〒600-8530

京都市下京区塩小路通堀川東入

Tel 075-344-7000

Fax 075-344-7001

## 国内の主な関係子会社、生産・開発拠点、研究開発拠点、営業拠点

### 生産・開発拠点

草津事業所

岡山事業所

綾部事業所

野洲事業所

### 研究開発拠点

京阪奈イノベーションセンタ

### 営業拠点

東京事業所

大阪事業所

名古屋事業所

三島事業所

### 関係子会社

オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社

オムロン ヘルスケア株式会社

オムロン リレーアンドデバイス株式会社

オムロン スイッチアンドデバイス株式会社

オムロン アミューズメント株式会社

オムロン フィールドエンジニアリング株式会社

オムロン ソフトウェア株式会社

オムロン 阿蘇株式会社

オムロン エキスパートリンク株式会社

## 海外地域統括本社

### 米州本社

オムロン マネジメント  
センター オブ アメリカ  
(アメリカ イリノイ州)

### 欧州本社

オムロン マネジメント  
センター オブ ヨーロッパ  
(オランダ 北ホラント州)

### 中国本社

オムロン マネジメント  
センター オブ チャイナ  
(上海)

### アジア パシフィック本社

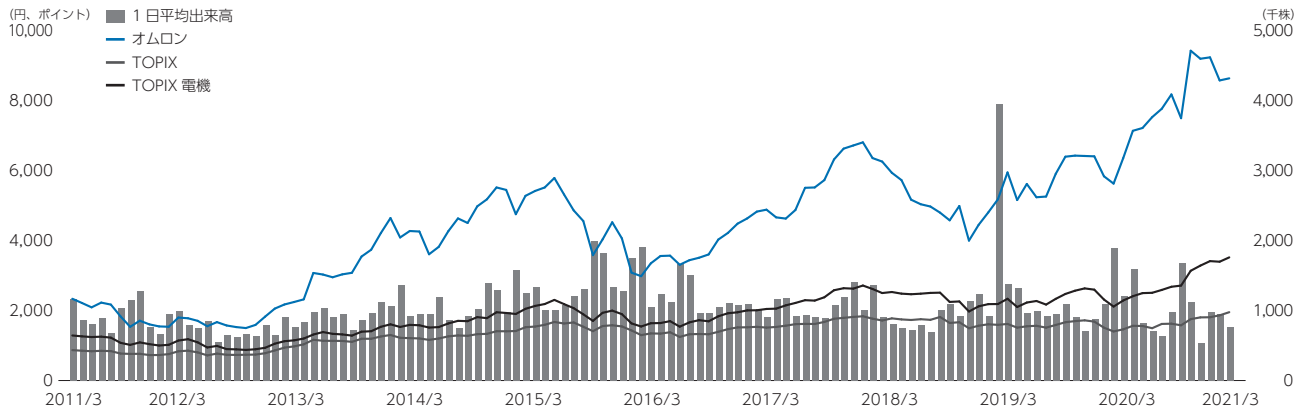
オムロン マネジメント  
センター オブ アジア パシフィック  
(シンガポール)

### 韓国本社

オムロン マネジメント  
センター オブ コリア  
(ソウル)

# 株式情報

## ■ 株価・出来高推移



\* オムロンの株価は、2013年7月15日以前は大阪証券取引所第一部、2013年7月16日以降は東京証券取引所第一部におけるものです。

## ■ 株主総利回り(トータル・シェアホルダーズ・リターン)\*1

| 年度      | 2016   | 2017   | 2018   | 2019   | 2020   |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| オムロン    | 147.9% | 191.2% | 161.4% | 177.4% | 269.7% |
| TOPIX   | 114.7% | 132.9% | 126.2% | 114.2% | 162.3% |
| TOPIX電機 | 127.0% | 157.8% | 140.9% | 138.9% | 234.3% |

\*1 キャピタルゲインと配当を合わせた、株主にとっての総合投資利回りを表します。  
内閣府令で規定する計算式で算出しています。  
2015年度末の終値で投資した場合の2016年度以降の期末時点の値です。

## ■ 年間株価最高値・最安値・ボラティリティ\*2

| 年度   | 最高値 (円) | 最安値 (円) | ボラティリティ (%) |
|------|---------|---------|-------------|
| 2020 | 10,040  | 5,330   | 28.8        |
| 2019 | 6,870   | 4,410   | 32.3        |
| 2018 | 6,300   | 3,740   | 34.5        |
| 2017 | 7,670   | 4,385   | 27.1        |
| 2016 | 5,120   | 3,045   | 32.5        |
| 2015 | 5,900   | 2,742   | 40.0        |
| 2014 | 5,800   | 3,365   | 30.9        |
| 2013 | 4,730   | 2,213   | 39.7        |
| 2012 | 2,478   | 1,436   | 29.9        |
| 2011 | 2,357   | 1,381   | 36.5        |

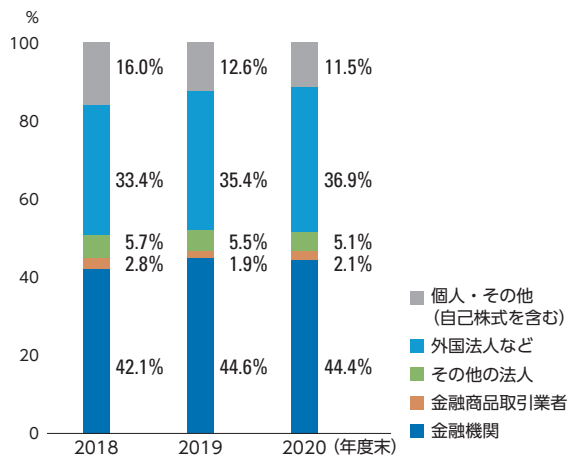
\*2 ボラティリティ：価格変動リスク。数値は標準偏差。

## ■ 配当・配当性向

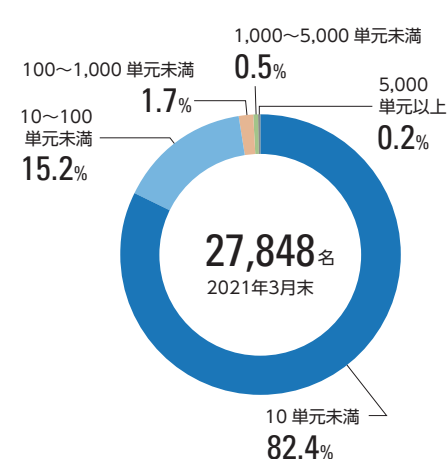
| 年度   | 配当 (円)           | 配当性向 (%) |
|------|------------------|----------|
| 2020 | 84               | 39.1     |
| 2019 | 84               | 23.0     |
| 2018 | 84               | 32.2     |
| 2017 | 76               | 25.6     |
| 2016 | 68               | 31.6     |
| 2015 | 68               | 31.1     |
| 2014 | 71               | 25.0     |
| 2013 | 53               | 25.3     |
| 2012 | 37 <sup>*3</sup> | 27.0     |
| 2011 | 28               | 37.6     |

\*3 うち80周年記念配当5円

## ■ 所有者別株式数比率



## ■ 所有株数別株主数比率(1単元:100株)



# 第三者保証

オムロンでは、「統合レポート2021」の記載事項の信頼性を高めるため、本レポートに掲載されている社会・環境に関連するパフォーマンス指標のうち、下記の項目について独立した第三者機関\*による保証等を受けています。

## 保証対象項目

- 海外重要ポジションに占める現地化比率 (P16,112)
- 女性管理職比率(P16,112)
- 障がい者雇用率(グループ国内)(P16,112)

## 保証対象項目

- 温室効果ガス排出量(P16,22,73,112)
- 売上高CO<sub>2</sub>生産性(P16,22,73,112)

## レビュー対象項目

- 環境貢献量(P16,22,73,112)



**独立した第三者保証報告書** 2021年9月10日

オムロン株式会社  
代表取締役社長 CEO 山田 義仁 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社  
大阪市中央区瓦町三丁目6番5号

取締役 松尾 幸典

当社は、オムロン株式会社(以下、「会社」という。 )からの委嘱に基づき、会社が作成した統合レポート 2021 (以下、「統合レポート」という。 )に記載されている2020年4月1日から2021年3月31日まで(ただし、「女性管理職比率」は、2021年4月20日時点)を対象とした★マークの付されている社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。 )に対して限定的保証業務を実施した。

**会社の責任**  
会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。 統合レポート内に記載。 )に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

**当社の責任**  
当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続について結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準 (ISAE) 3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主として統合レポート上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- 統合レポートの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した会社の本社における現地往査の代替的な手続としての質問及び証憑等の文書の閲覧
- 指標の表示の妥当性に関する検討

**結論**  
上述の保証手続の結果、統合レポートに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

**当社の独立性と品質管理**  
当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規範」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上

**独立保証報告書**

オムロン株式会社 殿

ビューロー・ベリタスジャパン株式会社(以下、ビューロー・ベリタス)は、オムロン株式会社(以下、オムロン)の委嘱に基づき、オムロンによって選定されたサステナビリティ情報に対して限定的保証業務及びレビュー業務を実施した。この保証報告書は、以下に示す業務範囲内に含まれる関連情報に適用される。

**選定情報**  
限定的保証業務における我々の業務範囲は、オムロン・ポレイトサイト(以下、Web サイト)内の「主要 ESG データ」ページに記載された、又は内部管理を目的としてオムロングループの内部で報告された、2020年4月1日から2021年3月31日までの期間の、以下の情報(「選定情報」)に対する保証に限定される。

- 1) 国内及び海外のオムロングループ 95 拠点の事業活動に伴う、温室効果ガス排出量(CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、HFC、PFC、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>)  
但し、オムロン大連における蒸気、温水、生活用途の電力の使用に伴うエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出は対象外。
- 2) 国内及び海外のオムロングループ 29 拠点の事業活動に伴う水使用量、排水量
- 3) 国内及び海外のオムロングループ 39 拠点の事業活動に伴う廃棄物排出量、廃棄物最終処分量、有害廃棄物排出量、有害廃棄物最終処分量  
但し、「有害廃棄物」の対象範囲は、法規制を考慮してオムロンが定義したものである。
- 4) 国内及び海外のオムロングループ 26 拠点の事業活動に伴う VOC 取引量、大気への VOC 排出量
- 5) 国内及び海外のオムロングループ 95 拠点において購入または創出された再生可能エネルギー量
- 6) GHG protocol Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard に基づいて算定及び報告されたスコープ 3 排出量のうち、カテゴリ1-1, 2, 3, 6, 7 の排出量  
但し、各カテゴリにおける算定範囲はオムロンの決定に基づく。
- 7) 売上高 CO<sub>2</sub> 生産性(売上高/グローバルの生産拠点のエネルギー使用による CO<sub>2</sub> 排出量)

レビュー業務における我々の業務範囲は、Web サイト内の「主要 ESG データ」ページに記載された、2020年4月1日から2021年3月31日までの期間の、以下の情報(「選定情報」)についての確認に限定される。

- 1) 2020 年度に販売した製品・サービスの使用に伴う CO<sub>2</sub> 排出削減貢献量  
但し、算定対象範囲と算定方法はオムロンの決定に基づく。

**報告範囲**  
Web サイト内に含まれる選定情報は、Web サイトに記載された報告範囲と共に読まれ理解される必要がある。内部管理を目的としてオムロングループの内部で報告された選定情報は、オムロンによって算定された内部報告範囲と共に読まれ理解される必要がある。

**限定と除外**  
以下に関する情報のいかなる検証も、我々の業務範囲からは除外される。

- ・定められた検証期間の外での活動
- ・「選定情報」として挙げられていない、Web サイト内の他の情報

限定的保証は、リスクに基づいて選択されたサステナビリティデータのサンプルと、これに伴う限界に依拠して

\*KPMGあずさ サステナビリティ株式会社  
ビューロー・ベリタスジャパン株式会社

## 「統合レポート2021」編集メンバー 50音順

### インダストリアルオートメーション ビジネスカンパニー

北島 英隆  
日岡 威彦

### イノベーション推進本部

大平 真琴  
北村 陽子  
荻野 裕貴

### エレクトロニック&メカニカル コンポーネンツビジネスカンパニー

鈴木 克寿  
安田 成留

### オムロン ソーシャルソリューションズ

家里 隆弘  
森 遼太郎  
吉田 純子

### オムロン ヘルスケア

飯島 かおり  
富田 陽一

### グローバル人財総務本部

糸井 南渚  
稲並 幸生  
上嶋 了太  
國府方 悦宣  
立岡 周二  
中島 伸  
原田 聖明  
山本 泰玄

### グローバルリスクマネジメント・法務本部

岡本 浩二  
田邊 慶周  
八木 佐千子

# 統合レポート2021発行にあたって

2020年度に終了した前長期ビジョン「VG2020」から、22年度にスタートする次期長期ビジョンへバトンを繋ぐ今年の統合レポートは、3つの点に拘って作成しました。

一つ目は、現在のオムロンの価値創造ストーリーを「3つの時間軸」の組み合わせで構成したことです。具体的には、「長期＝10年」、「中期＝4年」、「短期＝対前年」の3つです。「長期」の視点では、前長期ビジョンを総括するとともに次期長期ビジョンの方向性を示すことで、長期視点での価値創造の歩みを表出することを目指しました。次に、Businessセクションにおける各事業の説明では「中期」の視点を取り入れました。前中期経営計画（17年度～20年度）の4年間に培ってきた資産と能力が、現在の各事業の成長につながっていることを表現することを目指しました。そして最後に2020年度実績を中心に「短期」の業績をまとめることで、年次報告書としての役割を担保しました。

二つ目は、Governanceセクションにおいて社外取締役と社外監査役にそれぞれ登場いただいたことです。「取締役会の実効性」については取締役会議長と筆頭社外取締役に対談していただきました。「報酬ガバナンス」に関しては報酬諮問委員会の委員長に、そして監査役会の取組とKAM対応に関しては社外監査役にインタビューをしました。オムロンは、監査役会設置会社に指名諮問委員会を組み合わせたハイブリッドなガバナンス体制をとっています。社外取締役と社外監査役からもガバナンスの実効性について語ってもらうことが、さらなる透明性の担保と、市場との建設的な対話の進化につながると考えました。

最後に、今年度から「事業報告」と「有価証券報告書」と「統合レポート」の役割を明確にすると同時に、これらの開示文章を財務情報と非財務情報を掛け合わせたひとつの「価値創造ストーリー」でつなぐことに挑戦しました。任意開示となる本統合レポートでは、非財務価値につながる情報を多面的に役員・社員の視点も交えて描きだすことで、有価証券報告書を補完する形の編集に拘りました。有価証券報告書をまだご覧いただいてない方は、是非ご一読ください。

私たちはこれからも皆様との対話の機会を大切にしていまいります。是非、ご忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。



有価証券報告書は、  
こちらをご覧ください。

統合レポート2021 発行責任者 兼 編集長  
執行役員 グローバルインベスター&ブランドコミュニケーション本部長

井垣 勉

## 「統合レポート2021」編集委員

### グローバルインベスター&ブランドコミュニケーション本部

井垣 勉 (編集長) 染川 里美 (副編集長) 飯田 紀章 小田 洋 横田 有弘

#### サステナビリティ推進室

上山 留美  
貝崎 勝  
平川 靖行  
吉川 由紀

#### 取締役室

須永 百合子  
中井 直樹  
永田 晋也

#### グローバル戦略本部

村越 聖子

#### グローバルインベスター& ブランドコミュニケーション本部

奥村 俊次 山本 剛士  
河内 謙二 山本 茉奈  
来田 絵美理  
木村 佳奈子  
坂本 由香梨  
佐藤 友美  
柴田 昇  
中井 めぐみ  
藤田 篤志  
松山 和樹  
三浦 圭介  
村山 優子

#### 制作協力

宝印刷グループ  
株式会社ダイヤモンド社  
株式会社ディライツ広告事務所